

## 基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

# 草加市立病院

## 新病院長ぐあいさつ

病院長 河野辰幸



左から河野辰幸病院長、高元俊彦病院事業管理者

このたび高元俊彦前病院長の後を引き継ぎ、平成29年2月1日付で病院長に就任させていただきました。河野辰幸です。設立以来、地域医療の中核を担う病院として着実に歩を進めてきた草加市立病院ですが、更に皆様からの信頼を高め、最新かつ質の高い医療を提供し続けられるようこれから最善を尽くしたいと存じます。

### 私の経歴

私の前任地は東京医科歯科大学であり、医学部では副医学部長、附属病院の副病院長、外科系診療部門長を務めました。また、臨床栄養部長、光学医療診療（内視鏡）部長などを併任し、緩和ケアチームや栄養サポートチームの組織づくりも行いました。大学・大学院における職務としては、医療・国際協力担当の副理事、腫瘍外科領域長、消化管外科学分野教授として教育と研究に携わりました。そのような経験を活かし、全ての病院職員とともに、市行政、市議会、地元医師会、そして市民の皆様のお力を借りながら、最高レベルの医療を提供できる経営の安定した自治体病院であり続けることを目指します。

### 市立病院の役割

超高齢社会を迎えたわが国において、病院の果たす役割は極めて大きくなっています。加えて、介護、福祉の領域はもちろん、地域の活性化、文化活動など、自治体の担当する様々な活動にも何らかの役割分担が求められるようになりつつあります。市民の生命と健康を守る役割を果たすため、当院における活動の中心は救急医療を含む日々の診療行為にありますが、地域医療全体を見渡し、住民の疾病予防や健康の維持・増進にも深く関わる姿勢も必要だと考えます。そのような活動の中から、世界に誇れるような草加発の新技术や医療システムの発信ができれば、市への新たな貢献となるでしょう。

### 地域連携

医療の関わる領域は限りなく広がりますが、一方で、投入できる資源には限りがあります。そのため大規模な病院であっても、単独ではあらゆる医療ニーズに応えることは不可能です。その意味で医師会との連携は非常に重要であり、地域の医

### がん治療の拠点病院に

医療の本質は「病む人を侵襲的手法をもって癒す」ことにはありますが、あらゆる診療においてその侵襲の度合いを極限まで下げる努力は当然のことであり、科学的な根拠に基づく医療の提供を推進していきたいと思えます。がん対策基本法の制定から10年を経ても癌はわが国医療の中心的課題の一つであり続けています。私は食道癌診療を中心にして、癌の研究や教育、そして全人的・包括的医療の実践を企図して緩和医療の導入などを積極的に進めてきましたので、当院が培ってきた優れた診療基盤の上に、新たな癌診療の仕組みを創るつもりです。

ヒトは誕生から最期のときまで、患者として、あるいは家族・友人・同僚として医療と深く関わります。市立病院と市民の関係がいかにあるべきかは両者が共に考え決めていくことです。市行政や市議会と円滑な意思疎通を常に心掛け、全職員と共に、市民に信頼され、市の誇りとなるような病院づくりを続けていきますので引き続きご支援のほどよろしくお願致します。

### 河野辰幸 病院長 経歴

- 昭和51年3月 東京医科歯科大学医学部 卒業
- 昭和51年4月 東京医科歯科大学第1外科 入局
- 昭和61年5月 東京医科歯科大学第1外科 助手
- 昭和63年4月～平成元年9月 九段坂病院外科 医長
- 平成5年9月～12月 ミュンヘン工科大学病院外科
- 平成10年12月 東京医科歯科大学第1外科 講師
- 平成12年7月 東京医科歯科大学大学院 血流・血管応用外科学分野 助教授
- 平成12年9月～13年2月 コーネル大学ニューヨーク病院胸部外科
- 平成22年2月 東京医科歯科大学大学院 血管応用外科学分野 教授
- 平成22年4月 食道・一般外科学分野 教授
- 平成28年4月 消化管外科学分野 教授